

18歳意識調査 「第34回 - 脱炭素 -」要約版

日本財団 2021年2月25日

目次

調査概要	3
温暖化の主な原因	5
温暖化リスクの認知	6
日本の二酸化炭素排出量について	7
二酸化炭素の排出を削減するために進めるべき取り組み	9
「2050年カーボンニュートラル」を評価するか	10
「2050年カーボンニュートラル」評価 回答理由	11
「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか	13
「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか 回答理由	14
再生可能エネルギーの将来を期待するか	16
どの再生可能エネルギーに期待するか	17
脱炭素社会に向けて日本のエネルギー政策はどのように変わるべきか	18

調査概要「18歳意識調査」 - 脱炭素 -

調査対象 全国の17歳～19歳男女

回答数 1000
※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1000

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2021年1月12日（火）～1月17日（日）

調査手法 インターネット調査

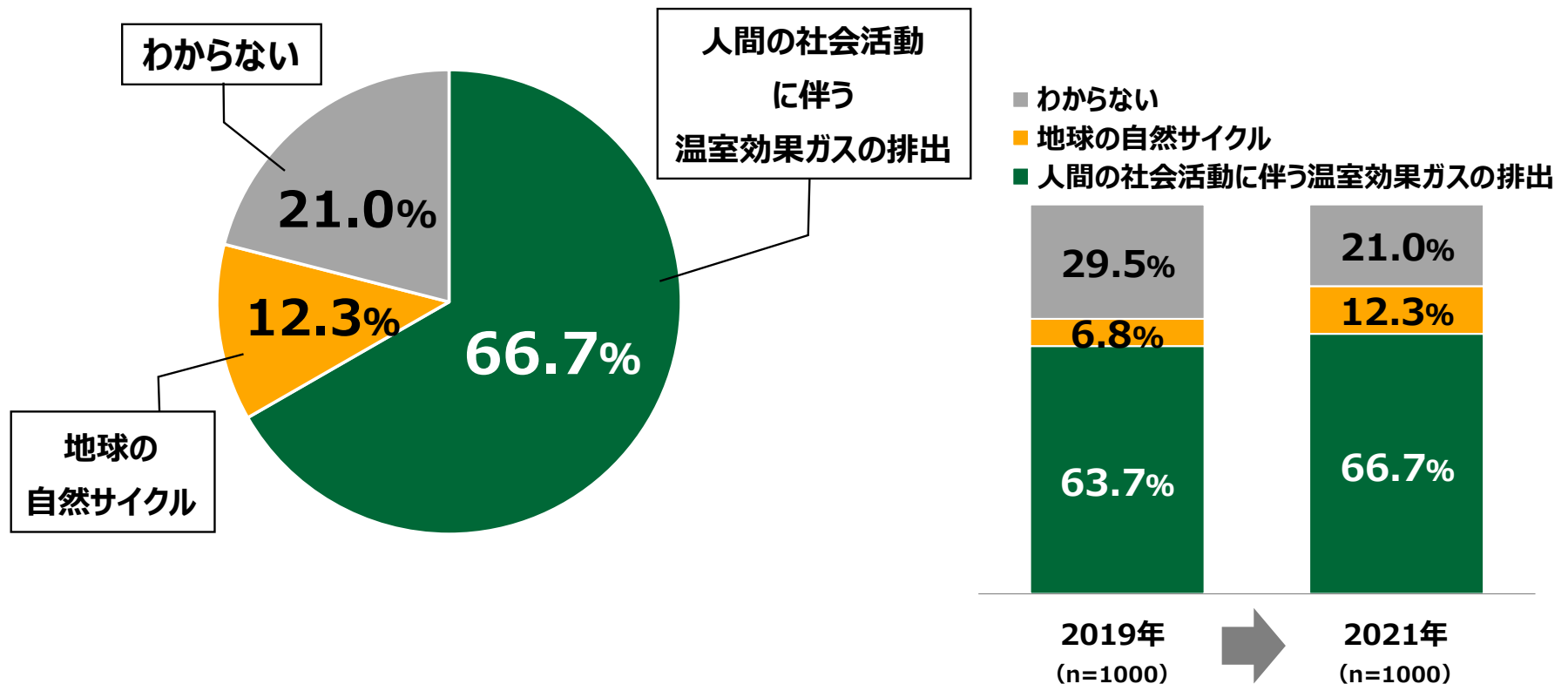
※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

要約

温暖化の主な原因

全体の66.7%が、温暖化の主な原因は「人間の社会活動に伴う温室効果ガスの排出」と回答。

Q 海面の水位および温度の上昇、大型台風や高潮、猛暑といった温暖化の影響と考えられる異常現象が世界で頻発しています。あなたは温暖化の主な原因は何だと思いますか。(n=1000)



2019年実施 第21回18歳意識調査 「気候変動」参照

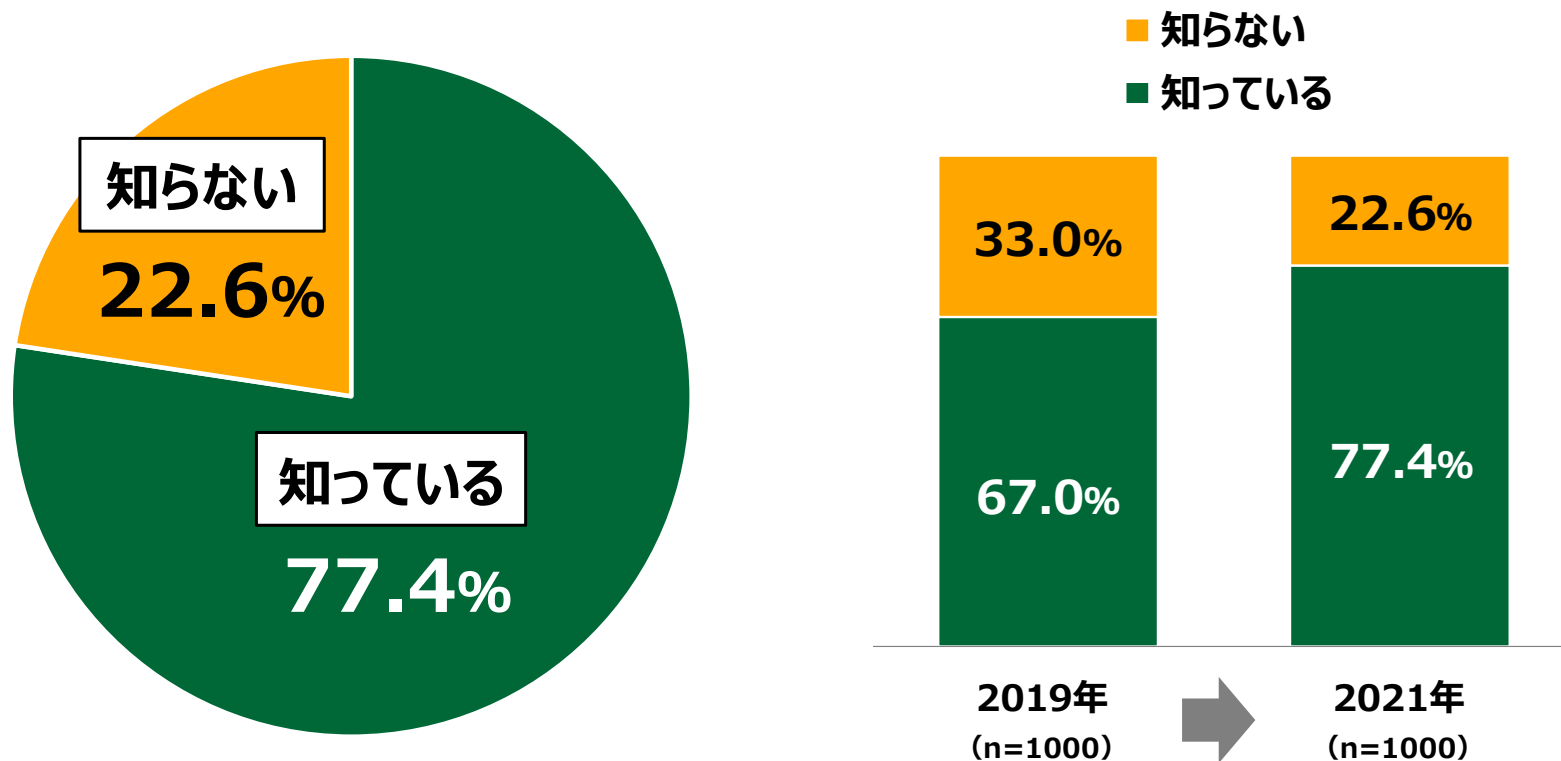
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2020/01/wha_pro_eig_109.pdf

温暖化リスクの認知

温暖化のリスクについては77.4%が「知っている」と回答。

- 前回調査と比較すると「知っている」が約10pt増加。

Q 異常高温、海水温の上昇、高潮、豪雨災害など温暖化が原因と考えられる想定外の災害が増えています。あなたはこうした温暖化のリスクを知っていますか。(n=1000)



2019年実施 第21回18歳意識調査 「気候変動」参照

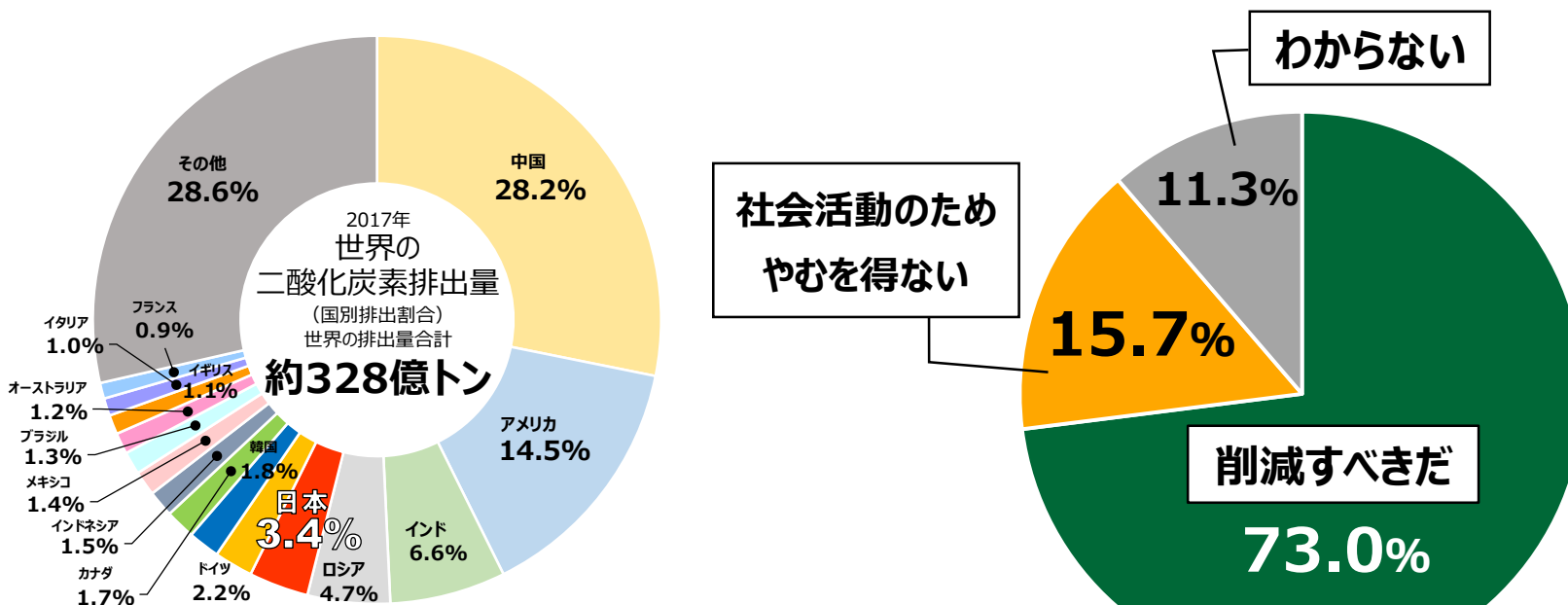
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2020/01/wha_pro_eig_109.pdf

日本の二酸化炭素排出量について

「削減すべきだ」は73.0%で、「社会活動のためやむを得ない」(15.7%)を大きく上回る。

Q 日本の二酸化炭素排出量は世界5位です。あなたはこの排出量をどう思いますか。(n=1000)

【参考画像】

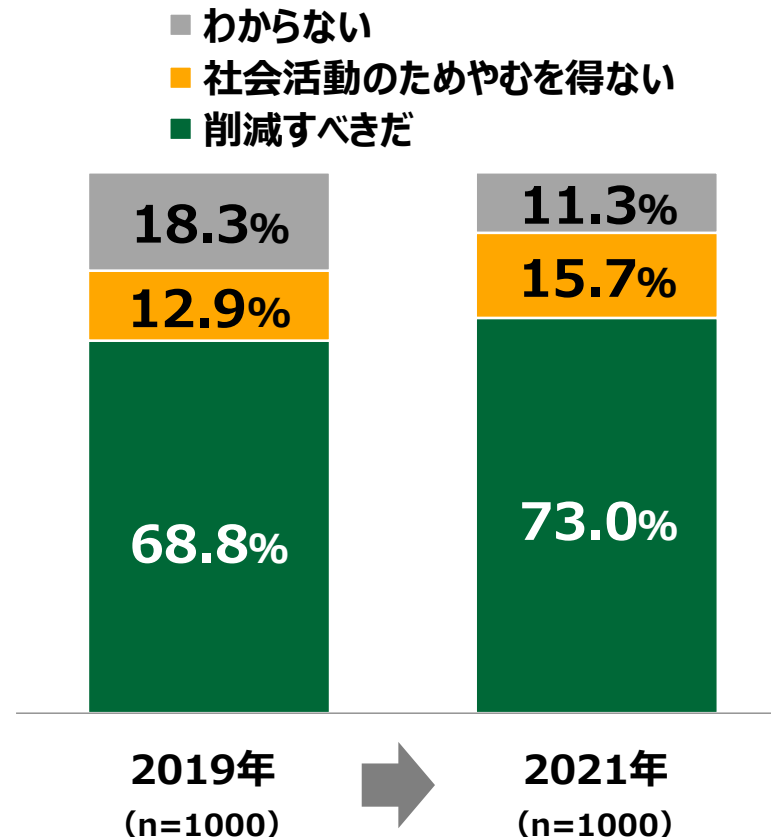


出典) EDMC/エネルギー・経済統計要覧2020年版
全国地球温暖化防止活動推進センター
ウェブサイト (<https://www.jccca.org/>) より引用

日本の二酸化炭素排出量について（参考 前回調査との比較）

- 前回調査と比較すると「削減すべきだ」が約4pt増加。

Q 日本の二酸化炭素排出量は世界5位です。あなたはこの排出量どう思いますか。（n=1000）



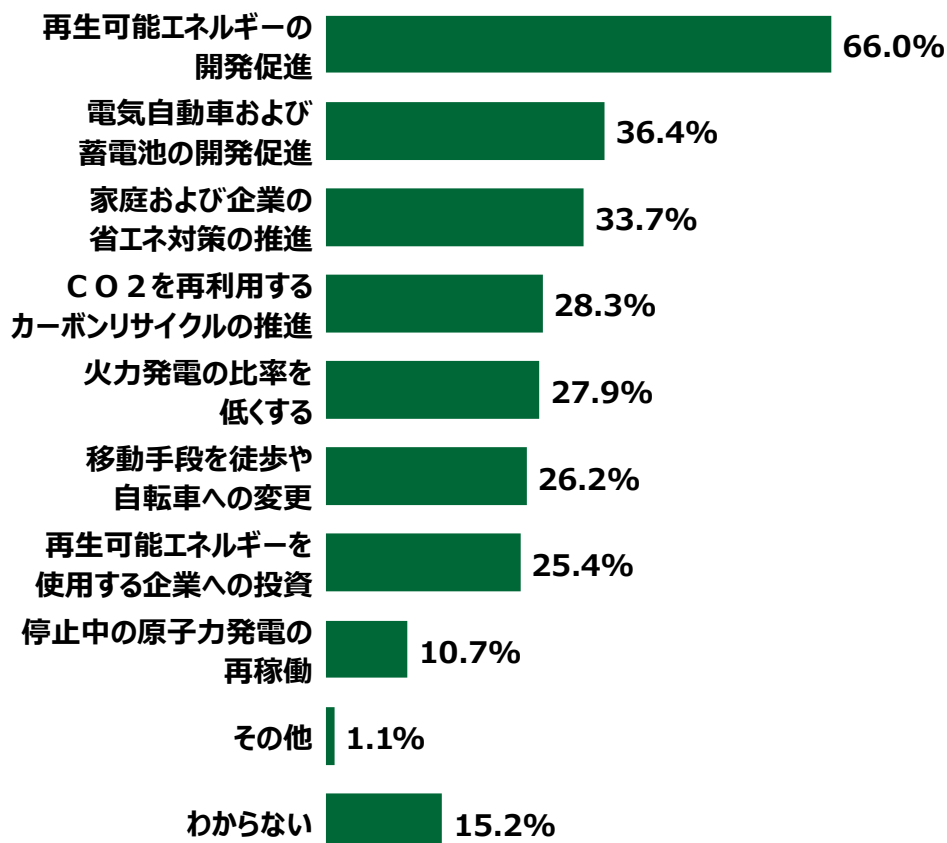
2019年実施 第21回18歳意識調査「気候変動」参照

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2020/01/wha_pro_eig_109.pdf

二酸化炭素の排出を削減するために進めるべき取り組み

二酸化炭素の排出を削減するために進めるべき取り組みは「再生可能エネルギーの開発促進」(66.0%)が最も高く、2位以下を大きく引き離す。ほか「電気自動車および蓄電池の開発促進」(36.4%)、「家庭および企業の省エネ対策の推進」(33.7%)が上位に挙がる。

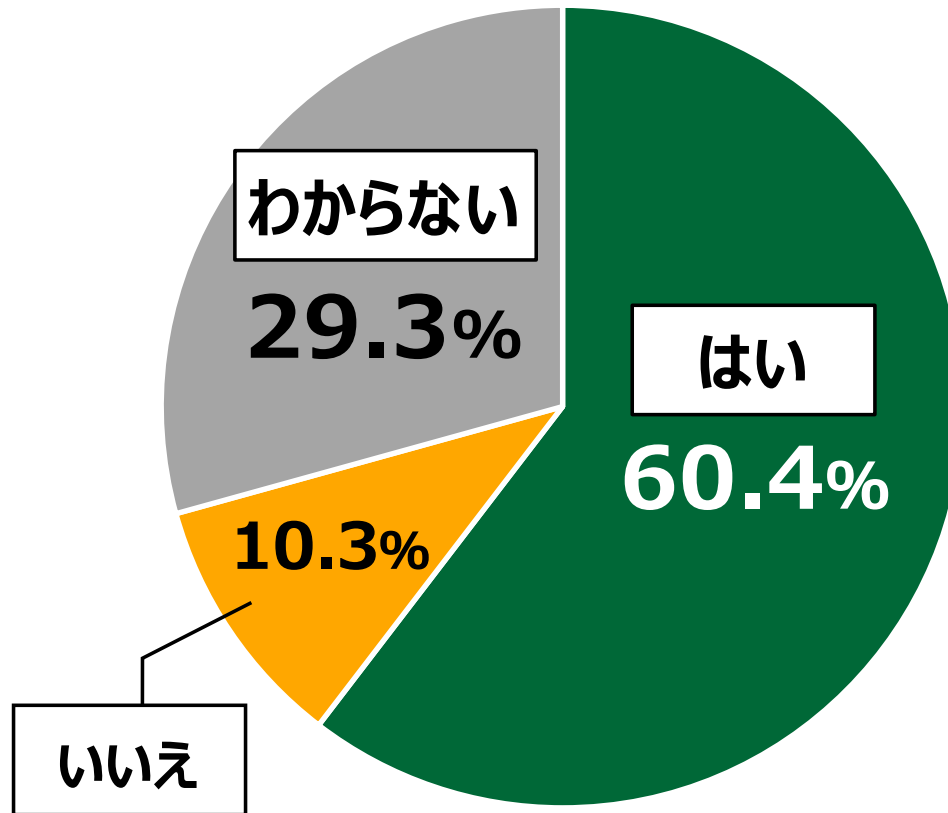
Q 温暖化の原因は二酸化炭素(CO₂)の排出が最大の原因といわれています。二酸化炭素の排出を削減するには、どのような取り組みを進めていくべきとお考えですか。(複数回答) (n=1000)



「2050年カーボンニュートラル」を評価するか

「はい（＝評価する）」は60.4%で、「いいえ（＝評価しない）」（10.3%）を大きく上回る。

- Q 政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。
／評価しますか（n=1000）



「2050年カーボンニュートラル」評価 回答理由

- 評価するとした理由は、「カーボンニュートラルをしようという目標を具体的に掲げた点に関しては評価したいと思うから」「政府が自ら目標を掲げたことを評価したいから」など、実現可能かどうかは別として目標を掲げたこと自体を評価したいという意見が目立つ。その中には、「目標を掲げて環境について考えるのは良い事だと思ったから。また、身近にできる事もあるから、少しずつでも実行していこうと思った」「目標を掲げることで削減意識に繋がっていくと思うから」など、政府が目標を掲げることで国民の意識が変化するという意見も寄せられた。
- そのほか、「カーボンニュートラルを行うことでこれ以上の地球温暖化を防ぐことができるから」「実現出来たとしたら地球温暖化を抑制するのに役立つから」「二酸化炭素の排出量をゼロにするということは、地球温暖化を止めるためには必要な活動であると思うから」など、これが実現できれば、二酸化炭素を削減でき、地球温暖化の進行を遅らせることができるという期待する声が挙がる。

(前問：政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。／評価しますか)

Q 前問で「2050年カーボンニュートラル」を【評価する】とした理由を記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載) (「はい」：n=604)

「はい(=評価する)」理由

目標を掲げること自体を評価したい

- Co2ゼロを目標に掲げているため応援したいと思ったから (男性)
- いいと思う。目標をかがげること達成できるかもしれないから (女性)
- カーボンニュートラルをしようという目標を具体的に掲げた点に関しては評価したいと思うから (男性)
- そういう計画を持たないと、とても実現できない (男性)
- それくらいの気持ちがないとCO2の量を削減できないため、しっかりと目標を立てることは良いことだと思うから。 (男性)
- 具体的な政策と目標を国が立てたから (男性)
- 実現できるできないではなく、そういった取り組みがあると知ってもらうことで人々が考えるきっかけになると思うから (女性)
- 政府が自ら目標を掲げたことを評価したいから。 (男性)
- 先を見据えた目標であり、実現すれば環境にとって良いことであるから。現実的に可能かどうかは判断が難しい。 (男性)
- 地球温暖化対策として、目標を定めて動いていくことは評価に値すると思うから (男性)
- 目標の時期を設定したことで確実に計画が進んでいくと思ったから (女性)
- 目標を掲げて環境について考えるのは良い事だと思ったから。また、身近にできる事もあるから、少しずつでも実行していこうと思った。 (女性)
- 目標を掲げることで削減意識に繋がっていくと思うから。 (男性)
- 目標を掲げると意識しやすいから (女性)
- 目標を設けることによってカーボンニュートラルの実現に向けて進み始めているように感じられるから。 (男性)
- 目標を定めて取り組むことで一定の効果が得られると思うから (女性)

実現できれば二酸化炭素を削減できるから

- 2050年カーボンニュートラルをすることで、二酸化炭素排出量が削減できると思うから。 (女性)
- このまま二酸化炭素排出量が増える一方であれば、地球温暖化がどんどん進み、人間だけでなく、様々な生物、植物などに悪影響であるため、削減することは大変良い事であると思うから。 (男性)
- 実現可能かどうかは考慮しない場合、評価する事が出来る。今現在、地球温暖化の主要因は二酸化炭素だと考えられている以上、その原因を取り除き、地球温暖化を抑制しようとする姿勢を見る事が出来るから。 (男性)
- 二酸化炭素の排出を大幅に減らせるから (男性)
- 二酸化炭素の排出量をゼロにするということは、地球温暖化を止めるためには必要な活動であると思うから。 (男性)
- 二酸化炭素を減らす政策として良いと思ったから (男性)
- 二酸化炭素排出削減に向けて努力しているから (男性)
- 排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量だとプラマイゼロになり環境に優しいから。 (女性)
- 本当に実現ができれば大幅に二酸化炭素がへるから (女性)

地球温暖化の進行を遅らせるために必要

- カーボンニュートラルを行うことでこれ以上の地球温暖化を防ぐことができるから。 (女性)
- これから地球温暖化が進行していくと思うので、何かしらの対策をする必要があるから。 (女性)
- できるのであれば地球温暖化対策の大きな1歩になるため (男性)
- 温暖化を遅らせることが出来るため (男性)
- 実現出来たとしたら地球温暖化を抑制するのに役立つから (女性)
- 地球温暖化が広がるなかでそのような対策は良いから (男性)
- 地球温暖化の進行を遅らせれると思ったから (男性)
- 地球温暖化を食い止めるためにはCO2の削減が不可欠だから (女性)
- 地球温暖化防止のために必要だから (男性)
- 地球温暖化防止への取り組みを行おうとする姿勢 (女性)

【「2050年カーボンニュートラル」評価 回答理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

「2050年カーボンニュートラル」評価 回答理由

- ・ 「評価しない」とした理由として、「ゼロにするのは不可能であると思ったから」「実現できなさそうだから」など、実現不可能であるからという声が多い。また、「もう少し具体的で実行しやすい目標を立てるべき」「具体的な政策が決まっていないから」など、具体的な内容ではないという意見も挙がった。
- ・ ほか、「それをするによって本当に効果があるかわからないから」など、実現しても温暖化対策として効果がないのではないかという効果を疑問視する声も挙がる。

(前問：政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。／評価しますか)
Q 前問で「2050年カーボンニュートラル」を【評価しない】とした理由を記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載) (「いいえ」：n=103)

「いいえ (= 評価しない)」理由

実現が難しいと思う／不可能だから

- ・ ゼロにするのは不可能であると思ったから (男性)
- ・ できるか分からない (女性)
- ・ まず、非現実的で実現可能な政策だとは思わない。また、政策として最も無駄な支出だと感じる。果たしてこれまでの政策によってどれほど効果が出たのか疑問である。このような政策にお金を支出するのであれば、目の前の課題をきちんと解決してほしい。(男性)
- ・ 経済を優先させると、達成が難しいから (男性)
- ・ 現実的でない (男性)
- ・ 今から約30年は実現不可能だと思うし、30年は長すぎる。もっと短期でできることを、少しずつやる方がいいと考える。(男性)
- ・ 実現できなさそうだから (女性)
- ・ 実現不可能だから (男性)
- ・ 不可能に近いから (女性)
- ・ 無理がある (男性)

エネルギー供給ができなくなりそう

- ・ そこまで安定したエネルギー供給ができなくなりそうだから (男性)
- ・ 火力発電の供給が大事だから (男性)

具体的ではない/信用できない

- ・ もう少し具体的で実行しやすい目標を立てるべき (女性)
- ・ 具体的な政策が決まっていないから (女性)
- ・ 世界の流れとして当然のことだとは思いますが流れに乗っただけで具体的なビジョンは見えてこない (男性)
- ・ 抽象的過ぎる (男性)
- ・ 日本の政府は信じていることができないから (男性)
- ・ 目標にするのはすごくいいと思うが、解決に繋がるような具体的な提案があまりないように感じたから。(女性)

それをして改善しない/する必要がない

- ・ する必要がないから (男性)
- ・ それをするによって本当に効果があるかわからないから (男性)
- ・ やった所で改善しないと思うから (男性)
- ・ 何もかも意味のない対策(レジ袋有料化やガソリン車廃止)を行い、余計に温室効果ガスを増加する政策をとっているため。(男性)
- ・ 地球温暖化は、人間が出した二酸化炭素排出量が影響している要因ではないためやっても意味がないから (男性)

【「2050年カーボンニュートラル」評価 回答理由「自由回答集」】

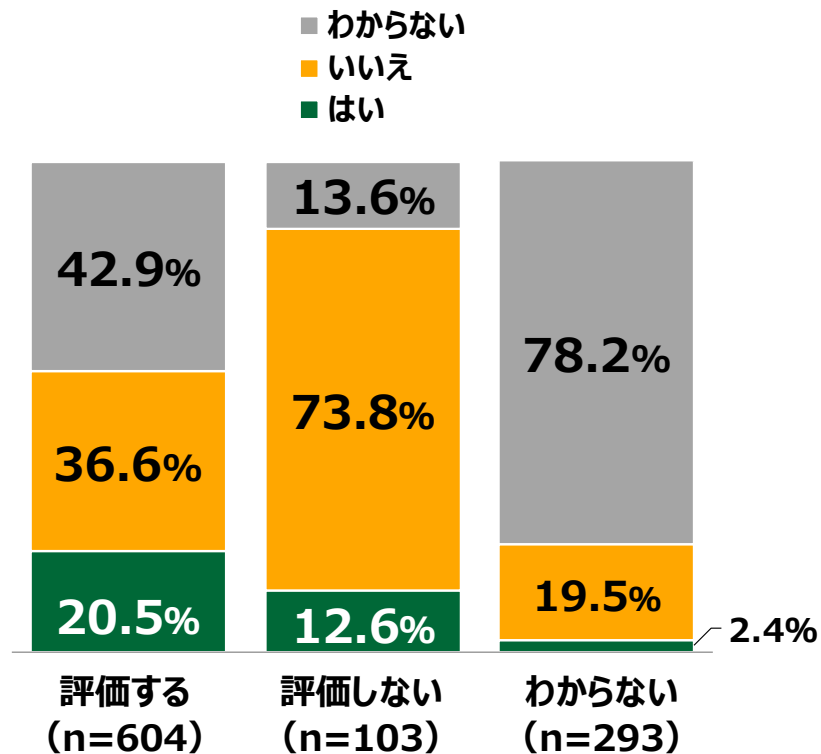
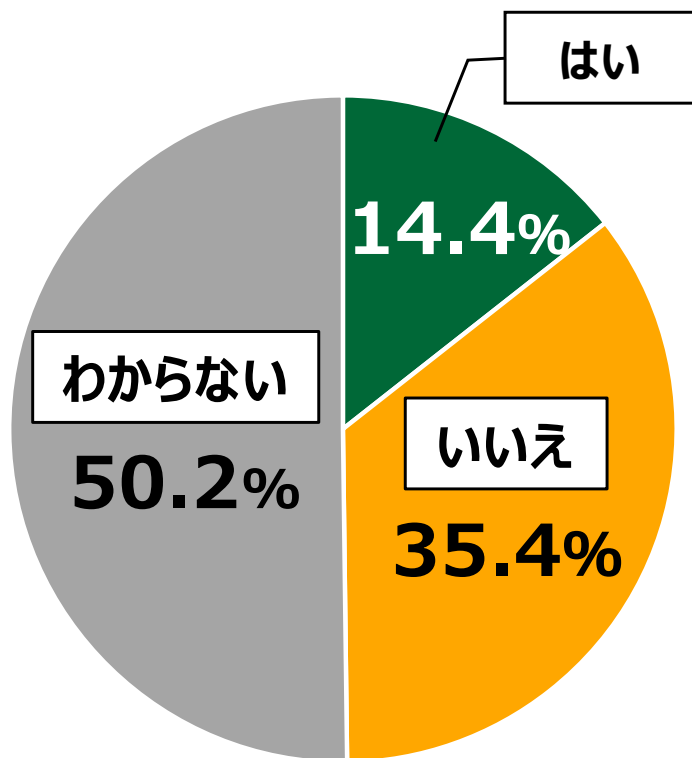
日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか

「わからない」が約半数を占める。「はい（＝実現可能だと思う）」は14.4%にとどまり、「いいえ（＝実現可能だと思わない）」（35.4%）を大きく下回る。

- 「2050年カーボンニュートラル」を評価する層では、「はい（＝実現可能だと思う）」が20.5%と全体に比べれば多いものの、「わからない」や「いいえ（＝実現可能だと思わない）」と答えた人の方が多い。

Q 政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。
／実現可能だと思いますか（n=1000）



「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか 回答理由

- ・ 実現可能と回答した理由としては、「あと30年もあるのでその間の技術の発展により実現可能に思えるから」「技術の進歩や努力により実現可能だと思った」など、科学技術の発展によりこの30年間で可能になるのではと期待する声が多く寄せられる。
- ・ また、「一人一人の行動次第で可能にも不可能にもなると思う。しかし最近の世の中の関心も相当高まっていると思うので実現できる可能性が十分に高いと考えたから」「国民一人一人の協力があれば」など、近年の環境意識の高まりもあり、国民の協力があれば可能になるという意見も挙がった。

(前問：政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。／実現可能だと思いますか)
Q 前問で「2050年カーボンニュートラル」を実現【可能】とした理由を記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載) (「はい」：n=144)

「はい(=可能)」理由

技術が進歩・発展すると思うから

- ・ あと30年もあるのでその間の技術の発展により実現可能に思えるから (男性)
- ・ エネルギー開発はめざましいから (男性)
- ・ このまま最新技術がどんどん進んでいくと思うから (女性)
- ・ 科学技術の進化を期待して (男性)
- ・ 科学力が発展してきたから (男性)
- ・ 技術の進歩や努力により実現可能だと思った。 (女性)
- ・ 技術的に可能かと思う (女性)
- ・ 世界の技術が発達しているから (女性)
- ・ 昔の人は薄型携帯の実現が可能でないと考えていたが出来た！それと同じような感じ！ (男性)
- ・ 日本の科学力ならやれると信じてる (女性)
- ・ 日本の技術があれば出来ると思うから。 (男性)
- ・ 実質的な二酸化炭素排出量は二酸化炭素排出量を減らすだけでなく二酸化炭素を変換することによっても減らすことができるためそのような研究開発が進展すると考えているから。 (男性)
- ・ 日本は短い時間の中でものすごい成長をしている。30もあれば日本なら可能だろう (男性)
- ・ 余裕をもった期間設定であるため、化学技術の発展が目覚ましい今であるからこそ可能であるのではないかと考える (女性)

国民一人一人の協力があればできる

- ・ みんなの努力で何とかなる (男性)
- ・ 一人一人の行動次第で可能にも不可能にもなると思う。しかし最近の世の中の関心も相当高まっていると思うので実現できる可能性が十分に高いと考えたから。 (男性)
- ・ 頑張れば出来ると思うから (女性)
- ・ 国全体で協力すれば出来ると思うから (男性)
- ・ 国民が一致団結すれば実現可能だと思ったから。 (男性)
- ・ 国民一人一人の協力があれば。 (男性)
- ・ 小さなことの積み重ねをすれば実現可能だと思うから (男性)
- ・ 水素自動車やゴミの排出など、協力すれば可能であると考えたから (女性)

目標が具体的なので

- ・ 具体性があったから (女性)
- ・ 再生可能エネルギーへの取り組み等、具体的な策も出ているから。 (男性)
- ・ 実現に向けた目標が明確になったから (男性)
- ・ 分かりやすい目標 (男性)
- ・ 目標が具体的だから。 (男性)

30年もあるので可能

- ・ 30年も試行錯誤するなら成功すると思うから (男性)
- ・ 30年有れば大丈夫だと思うから (女性)
- ・ あと30年もあるから可能 (女性)

【「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか 回答理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか 回答理由

- 「カーボン無くすことは今の状態では不可能だと思う。私たちの生活にすごく大切なもの。代わりになるものがない。」
「現在の生活を続けるためには、再生可能エネルギーだけではエネルギー量が足りないと思うから」など、今の生活スタイルを続ける限り二酸化炭素の排出は防ぎようがなく、今の電力需要に対応できる代替エネルギーは見つからないだろうという意見が多く挙がる。
- また、「約30年では、二酸化炭素をゼロにすることは難しいと思うから」など、あと30年という期間を考えると現実的ではないという意見、「現在の科学技術では現実的に厳しいと感じるから」など現在の技術力では難しいという意見も挙がった。

(前問：政府は2050年までに日本の温室効果ガス排出を実質ゼロにする政策目標として「2050年カーボンニュートラル」を掲げました。以下について、お答えください。／実現可能だと思いますか)
Q 前問で「2050年カーボンニュートラル」を実現【不可能】とした理由を記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載) (「いいえ」：n=354)

「いいえ (= 不可能)」理由

今の生活スタイルを続けていく限り難しい／ 代わりのエネルギーがない

- CO2をゼロにすることは今の現状から考えて不可能だと思うから。(男性)
- カーボン無くすことは今の状態では不可能だと思う。私たちの生活にすごく大切なもの。代わりになるものがない。(男性)
- 火力発電を補う発電量が無さすぎるから(男性)
- 経済発展により、二酸化炭素を減らすことは不可能に近いから。(男性)
- 現在の生活を続けるためには、再生可能エネルギーだけではエネルギー量が足りないと思うから(女性)
- 現状として火力発電に大きく依存しており他の発電ではこのままだと日本全体の電力需要に堪えられないため。(男性)
- 今の生活スタイルをしている限り不可能(男性)
- 産業が発展していく上では二酸化炭素の排出はやむを得ないものと考えているから(女性)
- 人間は便利なものがないと生きていけないから(女性)
- 全ての車を電気自動車や水素自動車に強制的に変えるのは無理だから(女性)
- 代替エネルギーが見つからない(男性)
- 代替のエネルギーが用意できる見通しがない(男性)

30年では難しい

- 2050年まであと30年くらいしか無いと考えると、現実的ではないような気がします。(女性)
- 2050年まである程度は二酸化炭素の排出量は減ると思うが実現可能にする程は減らないと思うから(男性)
- あと30年で減らせるとは思えない(男性)
- あと30年で人々の暮らしから二酸化炭素排出量が実質0になるとは考えにくいから(女性)
- いつかは可能かもしれないが30年では短すぎる(男性)
- 具体的な内容がわからなかった。また30年では進まないだろうと思った。(女性)
- 出来たとしても2050年よりも後になると思う(男性)
- 二酸化炭素削減の開発は進んでいるかもしれないが各企業や家庭まで普及されておらず、減りそうだという実感がない。技術が生まれても、普及させて二酸化炭素をゼロまで減らすのは、残り30年足らずで達成できるかどうか怪しいと感じた。(男性)
- 約30年では、二酸化炭素をゼロにすることは難しいと思うから。(男性)
- 約30年間で排出をゼロにするのは、今の取り組みでは無理だと思うから。(女性)

技術的に不可能

- これは実現することは実際の日本の技術では不可能だと考えたから(男性)
- 現在の科学技術では現実的に厳しいと感じるから(男性)
- 今の技術力から推定すると、実現は不可能に近いと思った。(男性)
- 実質ゼロは技術をどうにかしても無理だと思う(女性)
- 冷静に考えて実質ゼロにするのは技術やお金、時間的に不可能だと思う。(女性)

政府に信用がない

- 言うだけなら誰にでもできるが今の政府や政治家が真剣に取り組むとは思わないから。(女性)
- 今の政府に信用性が無い。(男性)
- 政府は大して実効性のある対策を立てない。レジ袋の削減などではなく、東南アジアなどでの森林破壊的な経済活動をやめる、石油燃料を用いた事業の削減など大きく減らすべきものがあるはずだ(男性)

具体性に欠ける

- それが実現可能ならもっと早くから事業や行動を行なっていただろうし、具体性が感じられないから(男性)
- 具体的な取り組みが現時点で国民に知られていないと思うから。(女性)
- 具体的な目標も、指標も国民みんなが把握して国民が一致団結しないと無理だから(男性)
- 現状では政府が具体的な方針や政策を示しているとは思えないから。(男性)

国民の意識が足りない

- 一人一人のCO2削減意識が少ない現状では、実現は難しいと思ったから(女性)
- 国民の意識が足りないから(女性)
- 日本は、あまり環境問題に興味がある人がおらず、何かをするといっても協力的になる人が少なそう。技術よりも、人の関心や気持ちの問題があると思う。(男性)

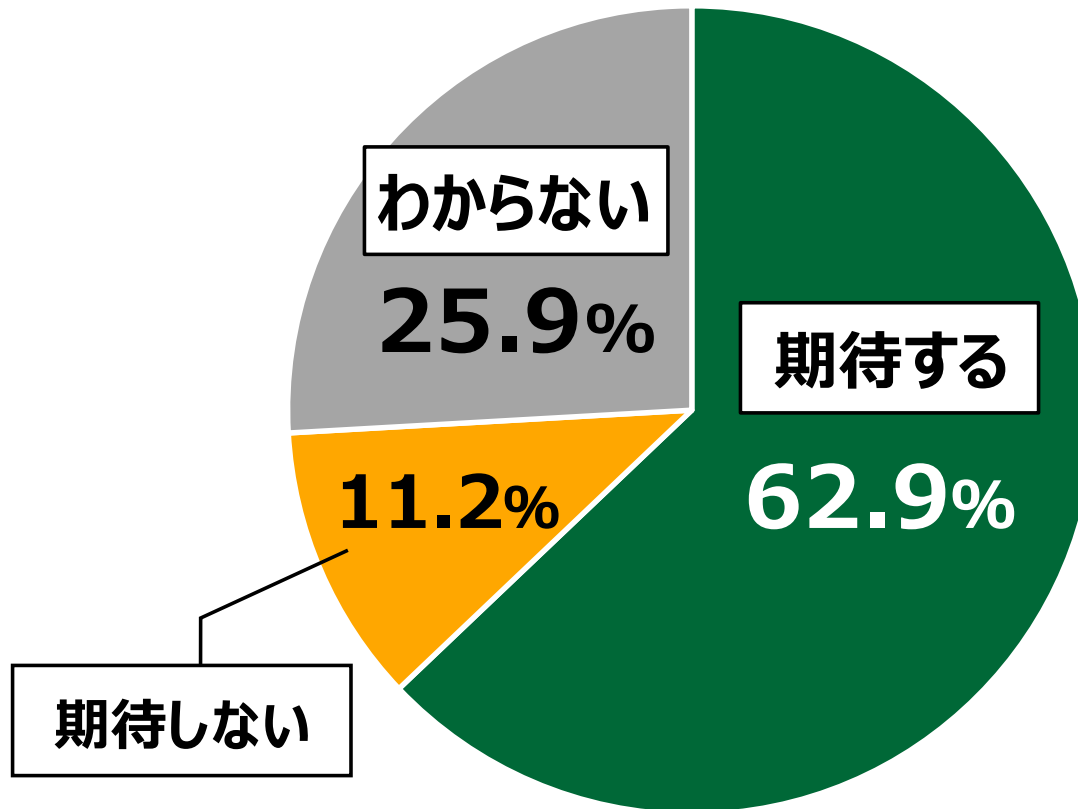
【「2050年カーボンニュートラル」を実現可能だと思うか 回答理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

再生可能エネルギーの将来を期待するか

「期待する」が62.9%と過半数を占める。「期待しない」（11.2%）を大きく上回る。

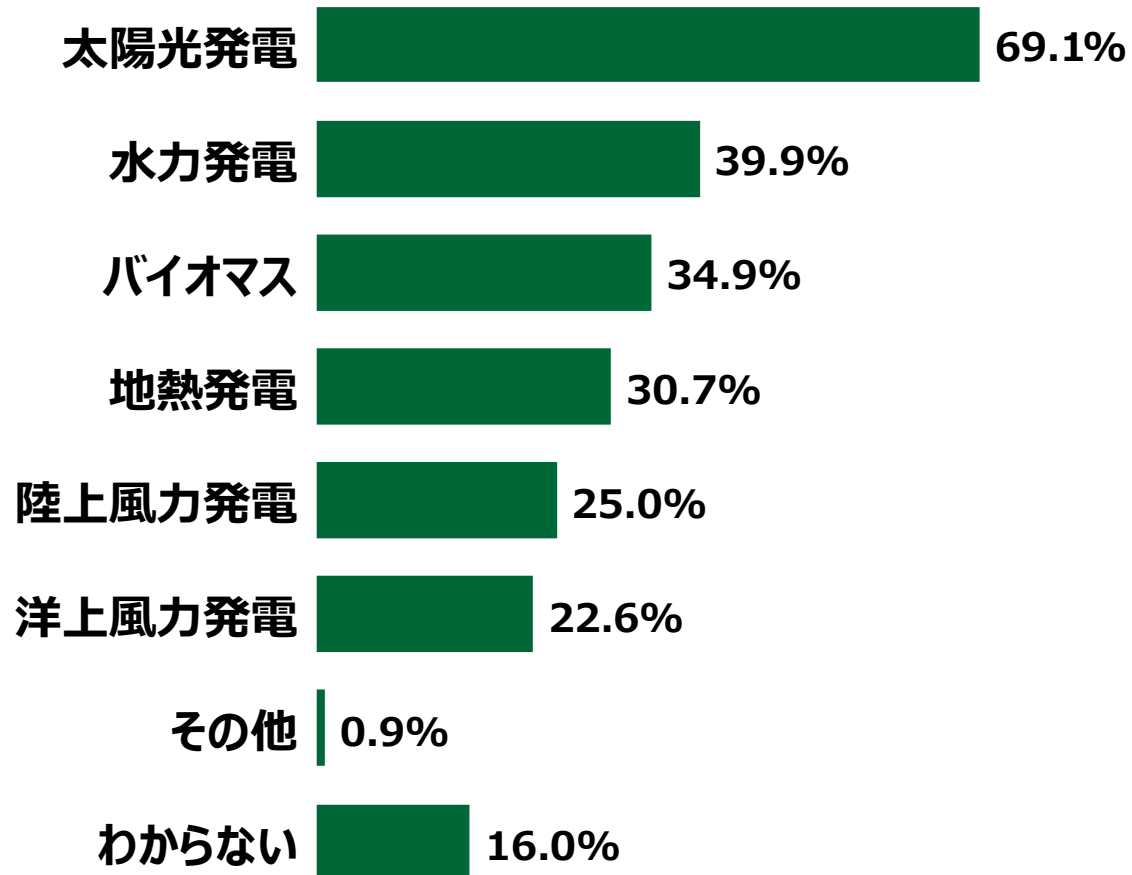
- Q 再生可能エネルギーの開発が「脱炭素社会」実現の焦点となっています。あなたは再生可能エネルギーの将来を期待しますか。（n=1000）



どの再生可能エネルギーに期待するか

期待する再生可能エネルギーは「太陽光発電」（69.1%）が最多。
ほか、「水力発電」（39.9%）、「バイオマス」（34.9%）が上位に挙がる。

Q どの再生可能エネルギーに期待しますか。（複数回答）（n=1000）



脱炭素社会に向けて日本のエネルギー政策はどのように変わるべきか

- 「安全かつ安価な再生可能エネルギーを開発すべき」「再生可能エネルギーで日本のエネルギーが賄えるくらいになるように力を入れる」など再生可能エネルギーの開発を促進していくべきという声が多く挙がる。中でも太陽光発電や、日本の自然を生かした地熱発電、風力発電に力を入れてほしいという意見も散見された。また、「1つの発電方法に偏ることなく、原子力、再生可能エネルギー等を含めて火力発電の比率を小さくしていくべき」「火力発電の稼働率を減らしていくべきだと思います」など火力発電の比率を低くするべきという意見も目立つ。
- ほか、「国民の生活様式から変えていくような政策がなされないと脱炭素社会とはならないのではないかと思います」など、国民の意識を高める取り組みを望む声や、「エネルギー分野における基礎研究をもっと補助するような政策が出てほしいと思う」「再生可能エネルギーに支援を惜しまないようにする」など、エネルギー分野の研究や開発のための支援を行っていくべきという声も挙がる。

Q 脱炭素社会に向けて日本のエネルギー政策はどのように変わるべきだと思いますか。（自由回答抜粋・原文のまま掲載）

再生可能エネルギーの開発促進

- いろんなものが再生可能エネルギーで動くようになればいい（男性）
- グリーンエネルギーに転換していくべきだと思う。（男性）
- 安全かつ安価な再生可能エネルギーを開発するべき（男性）
- 化石燃料の使用を早急に削減し、再生可能エネルギーによる発電を普及させるべきだと思う（女性）
- 火山大国なので地熱発電をもっと効率よく盛んにするべき。（男性）
- 現在の石油など輸入に頼るよりも、自然エネルギーを活かした他国に左右されない政策。（男性）
- 今のまま水素エネルギーの活用計画を頑張してほしいです。（男性）
- 再生可能エネルギーで日本のエネルギーが賄えるくらいになるように力を入れる。（女性）
- 再生可能エネルギーの開発の促進（男性）
- 自然エネルギーをもっと使い 日本はかぜが強いので 風力発電を活用して欲しい（男性）
- 水素自動車などの普及（女性）
- 積極的に再生可能エネルギーを利用すべき（男性）
- 太陽光パネルを多くの家にとりつけたり、工場など大きな建物の上に取り付ける（女性）
- 地熱発電が可能なら日本は位置しているので早め地熱発電に切り替えていく必要があると思う（男性）
- 日本の自然を生かした再生可能エネルギーを取り入れるべき（男性）

火力発電の比率を低くする

- 1つの発電方法に偏ることなく、原子力、再生可能エネルギー等を含めて火力発電の比率を小さくしていくべき。（男性）
- 火力発電を減らす。温暖化もあるので、使用する電力は増えると思うので、どのようにして電力を作るかと言うところを考える。（女性）
- 核や火力に頼らないこと。新たなエネルギーを生み出す、例えば道路などには車がたくさん通っているのだから圧力などでエネルギーが貯められるシステムを導入すれば良いと思う。人工的に雷を生み出してそのエネルギーを利用するのもありかなと。（男性）
- 再生可能エネルギーの利用をもっと増やすべきだと思います。火力発電の稼働率を減らしていくべきだと思います。（女性）
- 車をハイブリッドにしたり、火力発電を少なくする（女性）
- 二酸化炭素を出来るだけ出さないように一人一人が努力をする。火力発電ではなく再生可能エネルギーを使う。（女性）

国民の意識をより高めるための取り組み

- もっと政策を全面的にアピールし、国民の意識を高めることが必要であると思う。（女性）
- 一人一人意識して取り組めるように各家庭戸建てに太陽光を設置義務付ける（女性）
- 企業や政府だけでなく、各家庭でも個人でゴミを減らすなどの地球温暖化防止を意識して行動すべきだと思う。（女性）
- 国民の意識変革に向けた取り組みを実施する。（女性）
- 国民の生活様式から変えていくような政策がなされないと脱炭素社会とはならないのではないかと思います。（女性）
- 日本人の意識をもっと高めるべき（女性）

政府の支援・補助金

- エネルギー分野における基礎研究をもっと補助するような政策が出てほしいと思う。（男性）
- 環境改善に投資を増やしていくことだと思う。（男性）
- 企業が積極的にに関わり、それに対し国の補助金などの充実が必要（女性）
- 研究費をもっとだすべき（男性）
- 再生可能エネルギーに支援を惜しまないようにする（男性）
- 再生可能エネルギーに切り替えていく電気会社に補助金を出す（女性）
- 太陽光発電システムの値下げによる普及（男性）
- 脱炭素社会に向けた研究・開発事業への更なる支援・援助をしていくべきだと思う。（男性）
- 再生可能エネルギーへの投資とその開発の人材育成と投資（男性）
- 電気自動車への補助金を上げる（男性）

電気自動車の普及

- まず火力発電に依存しない。また、電気自動車などは、ガソリン車より排気ガスの排出が一見少なく見えるが、その電気を火力発電という二酸化炭素を出す発電方法によって電力供給しているため、あまり意味のないように考えられるので根本的な解決が必要（男性）
- 自動車は全て電気自動車になるべき。（男性）
- 自動車を電気自動車にする（女性）
- 色んな会社や自治体が協力して政策を実行できるようにするべきだと思う。（女性）
- 電気自動車の普及を実現させるべき（男性）
- 電気自動車への補助金を上げる（男性）

【脱炭素社会に向けて日本のエネルギー政策はどのように変わるべきか「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/